

# 13 News Letter

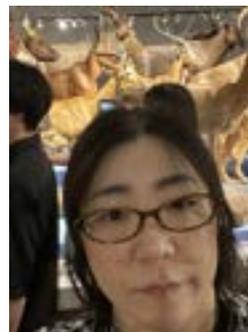
巻頭言  
2024年度大会  
開催案内  
改訂版 動物行動図説  
出版裏話  
お知らせ  
ニュースレター終了と  
SNSへの移行について

2024. Jul.

動物の行動と管理学会

## 巻頭言 副会長挨拶

加隈 良枝 (帝京科学大学)



私が勤務する大学では、国内の多くの他の大学と同様に4月に新年度が始まり新入生を迎え、新学期とともに講義や実習の準備などに追われる日々が始まります。ようやく少し落ち着いたかと思うと6月で、早くも夏休みやその後のスケジュール調整などが始まり、やはり慌ただしい1年がまた繰り返されていきます。

私事ですが、今年の秋には大学教員になって20年を迎えます。この繰り返しをそんなに長くやってきたことや、受け入れては送り出してきた学生の人数を思うと、大変驚きます。自分にとっては同じような講義・実習の繰り返しも多いため、ついルーティン化して淡々とやってしまいがちです。しかし学生たちは毎年異なり、彼らにとっては初めてのなので、毎回真摯に向き合うよう気を付けています。動物行動学や動物福祉学の分野との最初の出会いが、新鮮な驚きや感動を伴うものであるように願いながら、時代ごとの学生の気質や世の中の変化をふまえて毎年少しずつ内容を更新することで、その道に進みたいと思う次世代の人たちが増えるのを期待しています。

最近では、直接の恩師や、勝手に師と仰いできた分野の先駆者の方々が、大学を離れ引退されることも増えてきました。そして、近い先輩や同年代の方たちがベテランや第一人者と呼ばれるようになり、若手や新顔だと思っていた方たちが中堅になりつつあると感じます。感慨深い一方で、自分は何かを成したのだろうか、これから何ができるのだろうか、時代に取り残されていないだろうか、といった焦りも時折感じます。

私が応用動物行動学という分野を知った一つのきっかけは、インターネットが身近になる少し前、大学生になるかどうかのころに出会った「アニマ」という動物分野の科学雑誌で、当時宮崎大学にいらした佐藤衆介先生が国際学会の紹介を書かれた、見開き2ページほどの記事を読んだことでした。その内容への興味が消えず、行動学を応用し実践することによって、動物が人間社会に関わりながらも、できるだけ苦しまずに暮らしていける手助けをいつかしたいと思ったところから、今に至ります。

この20年ほどで世の中は随分変わったようにも思います。遅れていると言われ続けていた日本でも、動物福祉に対する意識や実践が取り入れられることが増えてきました。私も微力ながら取り組んできましたが、自分が思い描いていたことが少しずつ現実になっているのも確かです。けれどもこの先の10年、20年で、人と動物の関わりにおける新たな課題やさらなる問題がやはり浮上してくることでしょう。そうした場合に貢献できるよう、引き続き学会の皆さんと共に考えていければと思います。

ところで最後に話は変わりますが、先日、東京・上野の国立科学博物館で開催されていた「大哺乳類展3」を閉幕直前に見に行ってきました。哺乳類食肉目の研究者の端くれですので、小学生が発見し話題のニホンオオカミの剥製を含め、様々な標本を見ておきたくて出かけたのですが、週末の会場は大混雑で、展示はかなり見づらい状況でした。代わりに目についたのが、来場者の様子です。文字通り老若男女が、友人同士・恋人同士・親子や夫婦など、様々なグループで押しかけていて、思い思いに感想を言い合ったり、熱心に剥製を見つめていたり、骨格標本の写真を撮ったり、音声ガイドを聴きながらじっくり回ったりしていました。動物の研究者や学生ばかりではないはずなので、一般の方たちがなぜこんなに見に来るのか、不思議に思いました。しかも、動物園のように生きている動物が何をしているのかを見るのではなく、本やネットで画像も動画も見ることができるのに、動かない動物の標本を見たい人がこんなにいるのか、ということにも驚きました。そして、博物館が分類学の知見を社会に還元し、一般の方々に魅力を伝えることに成功しているのが羨ましくもありました。

私たちの専門分野である応用動物行動学や動物福祉についても、正しい知識や最新の研究動向について多くの方に知っていただけるよう、当学会もさらなる方法を模索しています。まずは手始めに、当学会編著で朝倉書店より今春刊行された書籍「改訂版 動物行動図説」や、9月に熊本で開催予定の研究発表会と同時に開催される公開シンポジウムへの参加を通じて、非会員の皆様にも触れていただければ幸いです。

# 動物の行動と管理学会2024年度大会について

田辺 智樹(大会担当・北海道立総合研究機構酪農試験場)  
加瀬 ちひろ(大会担当・麻布大学)  
新村 毅(大会担当・東京農工大学)  
リングホーファー 萌奈美(大会担当・帝京科学大学)

動物の行動と管理学会2024年度大会を下記要領にて開催いたしますので、奮ってご参加ください

日程: 2024年9月11日(水) 役員会、口頭発表(優秀発表または一般)、懇親会  
9月12日(木) 公開シンポジウム、口頭発表(優秀発表および一般)、ポスター発表、総会  
9月13日(金) 口頭発表(一般)、現地検討会

会場: 東海大学 阿蘇くまもと臨空キャンパス(学術大会およびシンポジウム)  
〒861-2205 熊本県上益城郡益城町杉堂871-12  
交通アクセス・キャンパスマップ (<https://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/campus-rinku/>)  
大学キャンパスと最寄り駅(JR豊肥本線 肥後大津駅)間はスクールバスが運行(無料)

口頭発表・シンポジウム会場: 大教室(2A203)  
ポスター発表会場: 附属図書館

今年度の大会は、対面開催のみでオンライン配信は予定しておりません。

学会参加(発表なしも含む)、公開シンポジウムへの Web申し込みを開始しますので、下記事項を参照の上、奮って御参加下さい。学会参加のみの場合も事前申し込みが必要となりますのでご注意ください。

申し込み後、申し込み内容の自動返信がありますので、Google formからのメールが受け取れる設定にしておいて頂くようお願い致します。自動返信がない場合は、担当者(田辺)まで御連絡下さい。なお、上限に達した企画については、その時点で申し込みを締め切りますので、御了承下さい。

## 学術大会

日時: 9月11日(水) 13:30~17:00  
9月12日(木) 13:30~17:30  
9月13日(金) 10:00~12:00

参加費: 無料

参加申込期間: 5月20日(月)~8月30日(金)(発表申込み、要旨提出ともに×切りました)

申込フォーム: <https://forms.gle/TAnvnQJg6UXLgDVg8>

## 公開シンポジウム

日時: 9月12日(木) 10:00~12:00

参加費: 無料

参加申込期間: 5月20日(月)~8月30日(金)

申込フォーム: <https://forms.gle/wbDcKAKpVzo4ZpBR6>

◇シンポジウムテーマ: アニマルウェルフェアの現在(行動と管理以外について)(仮題)

◇講演者

大橋 匠(東京工業大)

「持続可能なタンパク質供給システムに向けたトランジションデザイン」

本庄 萌(長崎大)

「EU動物福祉法の意義、課題、規範力」

太田 匡彦(朝日新聞社)

「新聞報道に見るアニマルウェルフェア」。

現地検討会

日時: 9月13日(金) 13:30~18:30

場所: 東海大学付属農場、阿蘇市内牧場

内容: 大学付属農場および阿蘇市内牧場の見学(予定)

定員: 30名(予定)

※現地検討会の詳細および申込みについては後日連絡いたします。

懇親会(予定)

日時: 9月11日(水) 19:30~

場所: 熊本市内(熊本城周辺)

※懇親会の詳細および申込みについては後日連絡いたします。

研究発表会申込み要領

発表形式にかかわらず演者は1名とします。

また、発表者1名に対し、口頭発表またはポスター発表のいずれか1題のみの登録とします。

1) 発表申し込み **※締め切りました**

発表者は、統合後の「動物の行動と管理学会」の会員の方に限ります。必ず2024年度会費を支払いの上、申し込みしてください。なお、発表申し込みの際には、①口頭発表(優秀発表賞エントリー)、②口頭発表(優秀発表賞エントリーなし)、③ポスター発表の3つからの選択となります。一般口頭発表の希望が多かった場合、ポスターでの発表をお願いする場合があります。

優秀発表表彰は学生を対象としています(詳細は下記)。

2) 講演要旨の作成 **※締め切りました**

発表用の要旨作成依頼および発表資料の送付依頼は、申し込み期間終了後、発表者にお知らせします。要旨の提出締め切りは、6月28日(金)を予定しています。申し込み締め切りから要旨提出締め切りまでのスケジュールが少しタイトですので、あらかじめ要旨の作成を進めて頂ければ幸いです。要旨については、例年通りA4サイズ1枚で作成してください。講演要旨作成要領は、学会HPからもダウンロードできます。

**【重要】**動物の行動と管理学会(以下、本会とする)は、特許法の規定による「特許庁長官が指定する学術団体」の指定を受けておりません。したがって、特許出願前に、本会が主催する研究発表によって、日本国内において公然と知られた発明の場合には、特許を受けることができません。特許申請をお考えの発表者におかれましては、十分、お気をつけくださいますようお願い致します。

3) 発表方法

発表資料の送付依頼も、申し込み期間終了後、発表者にお知らせするとともに、本学会のWebページに公開します。

## ◇口頭発表

発表時間:8分、質疑5分

発表方法:発表者は液晶プロジェクターでスクリーンにスライドを投影する方法により実施します。スライドは Microsoft 社の PowerPoint で作成してください。発表用のコンピューター(Windows、Mac の両方)は事務局で用意します。スライドは、あらかじめ提出して頂くこととし、提出締め切りは 8 月 30 日(金)を予定しています。

## ◇ポスター発表 ※ポスター発表は 30 名程度で締め切ります。

掲示時間:9月11日(水)13:00以降、図書館に掲示可能(予定)

サイズ:パーテーション(幅90 cm、長さ160 cm)に発表ポスターを掲示していただきます。推奨されるポスターサイズは横90 cm以内、長さ120 cm程度です。A4サイズやA3サイズなどの印刷物を現地で複数枚合わせて掲示することはできません。必ず 1 枚のポスターとしてご準備ください。ポスターを掲示するための画鋏やテープは事務局で準備します。

発表方法:30 分間のセッションタイムを設ける予定です。セッションタイム中は発表者は責任を持ってポスター前で発表してください。

## 4) 優秀発表表彰

学生(大学院生含む)を対象とした優秀発表表彰を行います。優秀発表表彰は、口頭発表に限定します。優秀発表表彰を希望される方は、Web 申し込みの際、「口頭発表(優秀発表賞エントリー)」を選択して下さい。受賞者の発表は大会最終日に行い、後日学会のホームページ、ニュースレターにも掲載します。

## 5) その他

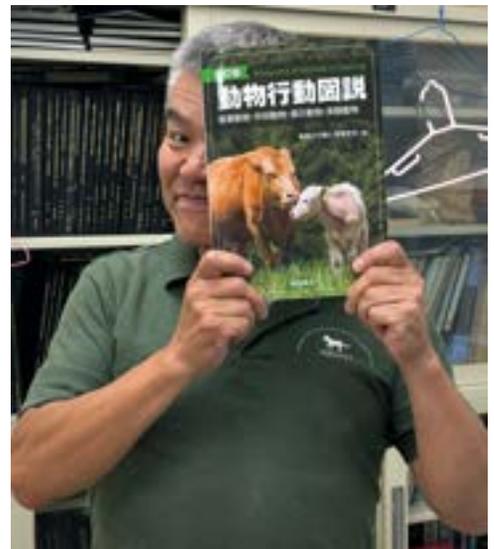
現在、非学会員で研究発表会へ参加を希望される方は、事前に「動物の行動と管理学会」に入会し、2024 年度会費(一般・学生会員:4,000 円;法人会員:12,000 円以上(1 口 4,000 円×3 口以上)の納入をお願い致します。なお、シンポジウムへの参加は、非学会員の方でも可能です。

## 改訂版 動物行動図説 出版に漕ぎつけました!

青山 真人 (宇都宮大学)

2021年7月、久々に家畜行動学の「四人の賢者」(佐藤衆介先生、近藤誠司先生、田中智夫先生、楠瀬良先生)から連絡を受けました。2011年に朝倉書店から出版された「動物行動図説」の改訂版の出版を考えて欲しい、という主旨の連絡でした。1995年に「家畜行動図説」が出版され、それから10数年が経った2011年に「動物行動図説」が出たわけですが、それからさらに10年以上が経過していることや、動画を撮影し公開することがかなり容易になっていることなどが背景にありました。四人の賢者と、朝倉書店から江田(こうだ)様、沼波(ぬなみ)様にも参加頂き、最初の話しをしました。当時コロナ渦中だったこともあり、ZOOMでの話しになりました。そのときから青山が会長であったので「取りまとめ役」を仰せつかったのですが、実は青山は2011年度版にはかかわっていませんでした。ちょっと迷いましたが、日ごろから学会を支えている有能な役員の方々は2011年度版にかかわっており、(当時は正直な話し)まあ、楽勝だろうと考えて、お引き受けしました。

実際に編集者の間で議論すると、構成でかなり難航しました(少なくとも楽勝ではなかった)。当時はずでにある内容に適切な取捨選択をするくらいで大丈夫だろう、と考えていたのですが、これに携わった皆様はいろいろと考えておられて、「教科書としてもっと使いやすい本にしたい」「内容は行動学の初心者にも分かりやすく」「価格を抑えたい」「実験動物を入れるべき」「展示動物の種類をもっと増やす」「行動研究の方法論をもう少し詳しく、具体的に、しかも分かりやすく」・・・などなど、ご意見を頂きました。



当時は正直、面倒くさいと思ったこともありましたが、これらに伴うエピソードを全て書くとニュースレター5回分くらいになってしまうので、とりあえず2つを簡潔に……。

1つは、実験動物としてラット・マウスを新たに加えたことです。実は私は、最初はこれら齧歯目を追加することに乗り気ではなかったのです（価格を抑えるために、あまり増やしたくないというのもあった）。でも、前会長の矢用先生が、実験動物学会でアニマルウェルフェアのセミナーをされてきたこともあり、これがかなりの後押しになったと記憶しています。北里大学の佐々木宣哉先生を編集委員に加え、さらに株式会社ケー・エー・シーの小山公成先生、天野真理子先生にも執筆者に加わって頂きました。今にして思えば、ラット・マウスを加えて本当によかったと思っています。おそらくこれまで、これら実験動物の正常な行動を写真つきで解説した本はなかったのではないのでしょうか？ ちなみに、うちの学生に見せたところ、女子学生たちに最も反応がよかった写真は142ページの摂水をしているマウスの写真でした。

2つ目は、載せる展示動物の種類をどうするか、でした。当初、山梨先生からは爬虫類や両生類、無脊椎動物まで載せる案も出て、最初はそれも面白いと思ったこともありましたが、しかしそうなると、産業動物としてカイコやミツバチも載せることになってしまうか、とも思い、きっと収拾がつかなくなる、いや、それよりもページが増えて価格が上がってしまう、など考え、結局「哺乳類と鳥類に限る」ことで落ち着きました（落ち着かせて頂きました）。それでも今回エミュやペンギン、アザラシやイルカなども加わり、さらに霊長類の種類も増えたのですが、担当された編集者、執筆者の先生たちに適切に、短く分かりやすくまとめて頂いたおかげで、全体のページ数を増やすことなく、動物種を増やすことができました。

この本の執筆にかかわった全ての人に深く感謝していますが、ちょっと特殊な感謝をしている人は、伊藤秀一先生でしょうか？ 当初、伊藤先生からの「教科書として適切な構成に」という圧が強く（少なくとも私はそう感じていた）、伊藤先生からの圧を受けて、全体の構成を当初案からかなり修正したことがありました。それに対して伊藤先生から頂いたメール（2022年6月）を今も持っています。「うーん、すばらし……コレは売れる……と思います。表紙に私の写真（私のじゃなくて、私が撮った写真）使ってください。是非、できれば、各動物の扉にカラー写真を使ってくれないかなあ。ますます売れると思う←自画自賛」。……今読み返してみると、すべて伊藤先生の思惑どおりに進みましたね……。なんかちょっと腹が立ってきた……。というのはウソです。当初、私は本書を「飼育動物の行動の研究を目指す人のための教科書」としてよりもただの「行動のカタログ」としてしかとらえていなかったもので、良い方向へ導いて頂いたのだと、今は確信しています。

最後に、朝倉書店の担当の方々には本当にお世話になりました。最初の江田様から、岡田萌笑子様を経て、最後は西村弦様と、担当者が2回、変わりました。特に最後の担当の西村様には、ともしればついつい先延ばしにしてしまう私を動かして頂き、スケジュールどおりに進むよう、ご自身もご尽力頂きました。私が東京出張ついでに、提出が遅れている校正を朝倉書店の本社まで持参し、さらにそのときにお部屋を借りてまだ終わっていないところの校正をさせて頂いたこともありました（念のために書いておきますが、呼びつけられたワケではない。私がそうさせて頂いた、ということ）。予定どおり2024年度に間に合うように出版できたのは、西村様のお陰です。この場を借りて、深く深く、御礼申し上げます。

## ニュースレターの終了とSNSでの情報発信への移行のお知らせ

### 小倉 匡俊（北里大学）

本ニュースレターですが、次々号(15号)を持ちまして終了することになりました。当学会の前身である応用動物行動学会で2003年から2019年まで54号の、動物の行動と管理学会に移行してからはこれまで13号のニュースレターを発行してきました。長きにわたりご愛読いただきましたが、広報理事および学会役員一同で情報発信のあり方を見直し、今後はSNSの活用へと移行することになりました。非学会員も含めより多くの方へ効果的に情報をお伝えすることを目指していきます。詳細は今後お知らせいたしますので、どうぞご期待ください！

### 編集後記

### 萩原 慎太郎（福山市立動物園）

ニュースレター13号を無事発刊することができました。執筆いただきました皆様には、感謝申し上げます。本年度をもってニュースレターが終了することになりましたが、最後まで頑張って編集してまいりますので、ご協力お願いいたします。